

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第7回高松市創造都市推進審議会
開催日時	平成25年7月28日(日) 13:30～15:00
開催場所	高松市役所 3階 32会議室
議 題	(1) 審議会, 懇談会の経過 (2) 主なプロジェクトの検討 (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長, 荒木委員, 大西委員, 木村委員, 小西委員, 佃委員, 徳増委員, 中西委員, 西成委員, 橋本委員, 原田委員, 広野委員, 松山委員, 三井委員, 三矢委員
事務局	宮武局長, 松本参事, 秋山部長, 米山課長, 安徳補佐, 長井課長, 東原課長, 櫻又場長, 佐々木課長, 佐野補佐, 西川補佐, 溝渕係長, 永木, コンベンションビューロー職員, 森本課長
傍聴者	1人 (定員 10人) 四国新聞社 中川記者
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過および審議結果

<p><b>1 開会</b> 事務局より開会の挨拶を行った。</p> <p><b>2 議題</b> <b>(1) 報告事項</b> 審議会, 懇談会(U-40)の経過等 事務局より説明を行った。</p> <p><b>(2) 協議事項</b> <b>ア 主なプロジェクト等の検討</b> 事務局より説明を行った。</p> <p><b>(意見交換)</b> 会 長    今回は写真や図表が入った冊子の形で資料があり, 補充した内容も多い。どこからでも意見を頂戴したい。 委 員    国際会議について, サンポートホール高松やアルファあなぶきホール以外にも大きな会議場がある。例えば, 香川インテリジェントパーク(サンメッセ香川)など, 触れられていないのは何故か。 事務局    まだ十分に整理できていないため, より整理をしたい。</p>
--

審議経過および審議結果

委員	<p>コンベンションについて、栗林公園や玉藻公園の利用も視野に入れてはどうか。ヨーロッパには「オフプロパティ施設」（国際会議等のレセプション会場として利用可能な希少施設）があり、ハプスブルク宮殿やバチカン宮殿、ニューヨークの美術館などの文化財を、コンベンションの際にはパーティ会場として利用する。</p>
委員	<p>今は玉藻公園で飲酒は禁止されているが、国際会議の際には飲食を許可してはどうか。そうすることで目玉となり、誘致がしやすくなる。ヨーロッパには、コンベンションに重きを置かない都市は衰退するという格言がある。是非、飲食については柔軟に対応してもらいたい。</p>
事務局	<p>「主な都市別国際会議開催件数」の表について、何かしらの意図はあるのか。国際会議を行うためには、会場周辺の案内や標識、街の清掃が必須となり、労力がかかる。それを踏まえると、「5件」というのは、それぐらいで十分ということなのか、もっと行う予定なのか。</p>
委員	<p>もっと高松は国際会議を行えるはずだ、という意図で表を載せている。各論の中で、国際会議の紹介や具体的なビジョンについて触れている。</p>
委員	<p>国際会議におけるオプショナルツアーについて。現在、2回目の瀬戸内国際芸術祭が開催されており、小西委員が各島の情報発信もしており、個人観光では、十分満足してもらえよう地域になってきたが、10～15人の団体客がツアーとして満足してもらえようかどうかは疑わしい。</p> <p>今のニーズとして、小規模のパッケージツアーが多い。また、変わった場所に泊まりたい、変わったものを食べたい、案内してもらいたいという声が多く、そのニーズに応えるようなパワースポットが高松にはある。しかし、大手旅行代理店にとって、小規模ツアーは儲からないため、そもそも相手にしてくれない。しかし、ニーズは存在しているため、第3種クラスの着地型の小規模ツアーが商品価値を持つ地域になればよい。</p>
会長	<p>アートスポットを巡る小規模なツアーがあるとよい。金沢では、アートNPがコンシェルジュの役割を担い、職人の工房とのアポイントメントを取るなどしてメニューを組むという、儲からないが意義のある事業を行っている。また、職人や学生のアトリエに行き、場合によっては商談を行うこともできるため、Win-Winの関係を築ける。</p> <p>世界的な美術館が、オープニングやバンケットの会場として使用されているが、会場料は高額であり、美術館側も収入源としている。また、全ての会議に使用できるわけではなく、いくつか選定して許可しているのだろう。</p> <p>各論の20ページの表について、高松市と東京、大阪を比較しては意味が無いので欄外とすべき。推移を載せるならば意味はある。また、比較するならば、瀬戸内の中核都市と比較すべきである。意図を持って、表を載せた方がよい。</p>
委員	<p>コンベンションについて、街のサインや多言語化が重要となってくる。イギリスから来られた人が、まちなかに外国語の案内標識がなかったために、ホテルから出られなかったことがある。</p>

委員	<p>栗林公園には、台湾やアジアからの観光客が多く、日本人より多い。しかし、彼らの多くはツアー観光であり、ガイドがいるから成立する。高松市は個人観光やオプションツアーが難しい環境にあるのではないか。ベーシックな整備ではあるが、多言語化を充実させることが非常に重要である。</p>
委員	<p>香川大学には留学生が数百人いるため、彼らと協力して、多言語化を進めてもらいたい。</p>
委員	<p>不便さが人気につながる観光地もあり、便利になると価値が落ちる観光地もあるため、どう捉えるかが難しい。</p>
委員	<p>根本的な問題として、高松駅を降りた時、日本人でも栗林公園や屋島への行き方が分からない。多言語化は栗林公園内では既に行っているが、そもそものサイン自体に問題がある。</p>
会長	<p>観光について、どこまでの情報を、どのように出すかが問題となる。</p>
委員	<p>申し込みがあれば、市民ボランティアが外国人観光客の案内を行ってもらうシステムがあればよい。金沢ではボランティアガイドの「まいどさん」という制度があり、また英語が上手な人も多いため、彼らがボランティアを行ってくれる。</p>
会長	<p>社会や親が子育てすることについて、触れる必要がある。授業参観に参加したが、親の社交場のようにになっていた。社会や親が子どもを育てる鍵である、という内容を書いてほしい。ある人が、学校教育の良し悪しは家庭にかかっていると言っていた。</p>
委員	<p>家庭の責任、親の責任、自然科学への関心、スポーツの活用などの修正点は、すでに加わっている。</p>
委員	<p>「スポーツを通じてあきらめない心」とあるが、礼儀作法やあいさつなどの基本的なこともスポーツを通じて学ぶことができる。</p>
委員	<p>高松の少子化について、小家族化が進んでおり、地域とのつながりが弱くなっている。地域の資源や人と連携し、それに親子で触れ合うような取組が必要ではないか。高松には水辺や川などの自然があり、このような地域の力を教育に活用できる取組があればよい。</p>
委員	<p>新川にて、親子でいかだを作り、いかだ遊びを行うイベントがあることをたまたま知った。もちろん、このようなイベントは自治体の理解がなければ行えない。このように地域資源を活用して、親子で活動できる環境が必要である。</p>
委員	<p>先ほど言及したスポーツは、地域スポーツ少年団のことであり、まさに地域によって育てられた。</p>
事務局	<p>「スポーツを通じてあきらめない心、自己肯定についての『達成感』」について、言い回しが少し分かりにくい。アイデンティティの確立を意味しているのか。</p>
委員	<p>表現は修正させて頂く。</p>
事務局	<p>27ページの具体的な施策について、四国村に子どもが遠足で来る回数が減っており、「魅力もなく、入園料も高い」ことが原因であることは把握済みだが、総合学習等で活用できる事業を行えるとよい。例えば、「地域も学校」のような活動はもっと増やしてもよい。</p>
事務局	<p>牟礼中学校ではイサム・ノグチについての講義を行った後に、実際にイサム・ノグチ庭園美術館へ牟礼中学校の1年生</p>

会 長	<p>を連れていき、帰ってきた後にワークショップを行ったところ、中学生たちは感銘を受けたようだった。このようなイメージで、高松市で行える事業を模索してはどうか。</p>
委 員	<p>「高松チルドレン・プロジェクト」だけ、「高松」が付いており、違和感がある。</p>
委 員	<p>食育の視点が抜けている。市場の体験は含まれているが、五感教育がない。五感教育は海外で盛んであり、例えば、果物の味をどのように言葉で表現するか、「最後の晚餐」に描かれている料理の味を考えるなど、食育を広い意味で捉えている。その場合、「食」と「こども」のどちらに入れるべきかが重要となってくるが、地産地消にもつながるため、是非とも入れてもらいたい。</p>
会 長	<p>高松は文化的な寛容性があまりよくない。家の近くに版画家のお爺さんが住んでおり、週2回で小学生から高校生の時までは遊びに通っていた。まわりの大人たちはいい顔をしなかったが、私は恐れずに遊びに行き、歌麿呂や広重のコレクション、時には春画も見せてくれた。春画を通じて、人が生きるエネルギーは人が愛し合うことから生まれることを教えてくれたのだが、決して教育するつもりではなく、楽しそうに語っていただけだった。イタリアやフランスに個展を出す時も荷物は紙袋1つであり、まさにクリエイティブな人材だった。</p> <p>現在の環境で、このような人材を受け入れることができるかどうか。クリエイティブな人が住みやすい場所になればよい。</p>
委 員	<p>創造都市のキーワードの1つに寛容性がある。しかし、ビジョンの中で文章にしてしまうと表現がかたくなってしまう。バランスをとりたい。</p>
事務局	<p>「多様な人たちのなかでどう立ち回るかを学ぶ場づくり」について、適切な表現に変えてほしい。市民はこの文章をそのまま読んで理解するため、誤解を招かない表現にしなければならない。</p> <p>「場づくり」というのは、どのような場を指しているのか。「こども」については、高松には公園は多いが、遊具は少ないため、遊び場に困っている状況にある。</p>
委 員	<p>「どう立ち回るか」は、どう立ち振る舞うかという意味である。</p>
会 長	<p>困難に出会っても乗り越えられる、たくましい人材に育ててほしいということではないのか。</p>
委 員	<p>項目Dにいきなり「レミダ」が入っているため、浮いてしまっている。項目A B C Dの中で、「レミダ」だけレベルが違っている。</p>
会 長	<p>「レミダ」の補足として、イタリアのレッジョエミリア市は、第二次世界大戦後にドイツ軍の残した鉄屑を売って、芸術家を教育現場に派遣する事業を行った。21世紀から注目されるようになり、各地で様々な取組が行われる中で、素材のリサイクルと連動した取組であり、例えば目利き力のある人が必要ない物などをおもちゃ箱のように集め、「レミダ」というイベントで作ったものを披露する。</p>
会 長	<p>「国際会議」と「こども」について、意見が出尽くしているようであれば、全体的な話に移りたい。</p>

## イ 推進ビジョン素案の検討

事務局より説明を行った。

### (意見交換)

- 委員 「はじめに」の「創造都市とはなにか」について、「言い換えれば」や「一方」を使っており、少々言い訳がましい。文章を綺麗にまとめてもらいたい。
- 委員 各論の29ページの「市民活動センター」は中核となる施設であるはずなのに、今までの活動を振り返ると、中核たる役割を果たしているとは思えず、予算もないため、この際に改めてはどうか。
- 事務局 庁全体として対応していく。
- 委員 各論の交流空間の屋島陸上競技場の再整備ビジョンについて、突然出てくるため、前段で再整備について触れてもらいたい。競技場の再整備だけでなく、ヨットやクルーザーを気軽に停められる場所の整備を通じて、リッチな水辺空間を作ることができれば嬉しい。
- 委員 総論の4ページで、高松は日本で唯一の水城・城下町であり、それが高松の基盤であることを述べてはどうか。単なる城下町が形成されたのではなく、三角州の真ん中に城を作り、扇状に街を作ったのは高松だけである。そのため、世界で唯一の観光都市となりうるチャンスがある。
- 委員 17ページの「創造都市政策を実現する戦略的な財源確保」について、創造都市関連予算が増えるのか。そうでないなら、「戦略的な」という表現を変えてほしい。例えば、「効率的な」など。
- 事務局 行政の仕組みとして、施策展開によって予算は増減する。また、言い回しが適切かどうかは別として、節約だけではダメである。つまり、「効率的」だけではダメである。
- 委員 県からの予算調達について触れるのはどうか。
- 会長 国は文化予算の増加を目指しており、2020年までの目標として創造都市政策に関する予算の充実が挙げられている。総務省や内閣府についても、連動する予算の枠組みが出てくるはずであり、それを踏まえての「戦略的な」という表現である。
- 委員長 平成26年度からのプランであるのか。
- 委員長 現に動いているものもあるが、このプランは平成26年度予算を念頭に置いたものである。
- 委員 各論の22ページの「訪日観光客誘致事業」について、台湾が含まれていない。現在、高松に最も来てくれているのは台湾であり、一番お金を使ってくれている。
- 委員 総論の2ページと16ページについて、創造的人材の集積について、中央公園に歴代の偉人の銅像があることを紹介していないのはなぜか。そうした人々を見直し紹介することが、創造的人材の集積、そして教育につながる。
- 会長 第2表で歴史について触れられており、よくまとまっている。その中に歴代の偉人も入れてはどうか。ただし、偉人をどこまで加えるかは、調整が必要。
- 会長 今回が最後の会議なので、全体としての感想などがあれば

委員	述べてもらいたい。 西成委員が高松は日本唯一の水城の城下町であることを述べられて、まさにその通りだと思った。日本で「ここにしかないところ」が残っているところは少ない。その特徴を伸ばして、アピールすれば効果的である。
委員	ウォーキング，ジョギング，サイクリングなど，すぐにできそうなことがあまり取り挙げられていなかった。たくさんの人が歩いており，走っている。その人たちのためのコース作りに触れていないことが残念である。 住んでいる人々が「このまちがいい！」という口コミが，最大のプロモーションにつながる。各論や事業に拘るのではなく，原点に帰った計画が最もよいのではないか。 また冊子が配られるだけで，審議会が終わることに危惧している。市民の生活を見直しながら，行動の改革を続けていくべきだ。
会長	各論の５ページでウォーキング，ジョギング，サイクリングは入っている。 「クリエイティブな生活，豊かな生活のできる都市」が創造都市であり，観光客向けの都市を作るのではない。
委員	暮らしを守り産業発展により雇用を守ることが重要であり，その点で自立しなければならない。税金や補助金に頼りがちであるため，雇用を守る，生活を守ることでの自立について，具体的に触れてほしい。
会長	総論で挙げている将来像は，まさに木村委員の言われたことに関係がある。
委員	総論の１４ページの「高松市が目指すビジョン」の「魅力にあふれ，活力のある創造都市」について，何が創造的であるのか，まだ表現しきれていない。高松の市民性は口下手であり，自分の思いを表面に出せないが，住んでいる市民が高松に誇りを持ち，外に発信していくことが重要であるため，個性的な表現などに変える必要がある。
委員	創造都市は新しい地域づくりの考え方である。人口減少社会の中で高松がどのように豊かに生き残っていくか。問題はどのように人材づくりをしていくかを考えなければならない。
委員	総論の１０ページについて，文章表現が適切ではない。他にも細かいところで文章表現が適切ではない。我々が案をまとめて，市長に提出するため，それを踏まえて文章をより綺麗にまとめてもらいたい。
委員	各論の取組イメージについて，民がアイデアを持ってきて，行政が実施するのか。よいアイデアは民が持ってくる方が多い気がする。様々な規制もあり，県と市の関係もあるが，例えばシンボルタワーの使い方についてのコンペなどはよいアイデアを生み出すことになる。 予算の使い方は様々な形があるため，民のアイデアを活かせるようにしてもらいたい。
委員	学生とまちを歩いている時，高松市はどこに何があるかが分かりにくいと気づいた。ある学生が「県と市の管轄が違うだけで土地利用などがこんなにも違うのか」と言ったが，真つ当な意見である。しかし，「管轄の違い」を乗り越えることは非常に難しい。学生も「県と市はどうして仲が悪いの

	<p>か」と言っていたが、一番重要なのは「管轄の違い」をどうするかであり、創造都市を推進する中で対応していく必要がある。</p>
<p>会 長</p>	<p>そうしたことを問題として、文章に書くだけでなく、言い続けることが重要である。委員の皆様にも、同じ役割を担ってもらいたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>各論の16ページについて、芸術文化と文化芸術の2つの表現があるが、どちらに特定するのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>文化芸術で特定させて頂く。</p>
<p>委 員</p>	<p>正直なところ、現状の改革ではクリエイティブの印象が薄い。</p> <p>「こども」の現状認識と課題について、これだけでは足りない。こどもたちはどのような状況にあり、現在はどのような活動をしているのかを書く必要がある。</p> <p>こどもの世界こそクリエイティブが重要であり、こどもが生き生きとして次の時代を担えるような環境を高松市が作れるかどうかは、創造都市にかかっている。</p> <p>教育は家庭だけではない。教育の現場をどのようにクリエイティブにしていくか、それがこどもたちを活性化し、将来が見え、高松市も変わっていく。それを踏まえると、この現状認識や課題だけでは厳しく、もっと書き込んでほしい。芸術士を派遣するだけでよいわけがない。</p> <p>全体としては、新しいコンセプトに向かって、市民への提案という形で作ることは非常に大切だと思う。しかし、大人たちが直面している問題を、次の世代にどのようにクリアしてもらいたいかを示した方がよい。</p>
<p>会 長</p>	<p>「こどももクリエイティブを持ってほしい」理由を明記してもらいたい。</p> <p>教育委員会は独立しているため、簡単には介入できない。連携を通じて、創造的人材の育成につなげていくことになる。</p>
<p>委 員</p>	<p>聞き取りの際に意見や思いを伝え、ほとんど盛り込んでもらっている。</p>
<p>委 員</p>	<p>このような機会がなければ、市役所に通う機会はなく、また市の事業を知る機会もなかったが、多くのU-40世代の人々は未だに知らない状況にある。「発信力」が重要となってくる。</p>
<p>委 員</p>	<p>U-40にて、社団法人を立ち上げる方向に進んでいる。若い世代の力で発信の仕方を考え、私たちが官と民をつなげる働きを担っていきたいと思っている。</p> <p>各論の28ページの「もっともっと創造的プロジェクト！」について、クリエイティブな取組を推進していくことを市民に知ってもらうために、発信などの基盤的な取組が必要となるのではないか。</p> <p>私は街の中で商売をしており、様々な人たちに出会う。健常者だけでなく、病気など様々な問題を抱えている市民がいる。人によって価値観が違い、そもそも変わっていくものであるが、海外旅行によく行く友人から「高松は汚くなった」と言われた。昔は中央通りも緑や芝生が綺麗な場所だったが、サンポートへのバスから見ると緑が美しくなくなっていた、と言われた。</p>

委員 総論も各論も、表紙のデザインがよろしくない。せっかく創造都市のビジョンであるため、こどもたちの描いたまちの絵を使ってみてはどうか。高松市が所有しているはず。

金子知事の時に、デザイン室が設置され、デザインの意義に重きを置いていた。どのように発信すれば市内のサービスの質は高まるのか、クリエイティビティは高まるのかを、「コミュニケーション・デザイン室」を設置することで一緒に考えることができれば、大きな一歩となる。

委員 香川県と高松市には、もっと連携してほしい。各論の30ページの「交流空間」を見ても、屋島と高松城に係る政策はあるが、栗林公園はない。

将来の創造都市を考えると、今までの伝統や文化が重要となり、それがあって始めて、高松らしい創造都市となる。このことを忘れないようにしなければならない。

人口減少社会の中で、移動人口を増やすことは街のエネルギーとなる。

具体的に動かしてもらいたい。会長のおっしゃる通り、行政に対して何度も言わせて頂く。

会長 皆さんのコメントを整理して、市長答申で見せたい。また、冊子の最後に各委員の一言メッセージを載せてはどうか。そうすれば、生の声をもっと伝わる。

事務局 多くの意見を頂いたにも関わらず、的確な言葉で表現できなかったことは申し訳ない。コミュニケーション・デザインを考え、言葉にすることで市民と共有し、共感を得られるものとして創造都市を推進していきたい。委員の皆様やU-40には、実質的な見張り役といった役割をこれからも担ってもらいたい。

### (3) その他

事務局より説明を行った。

### 3. 閉会